

の未来を考える オープンミーティング

【農業】

サブテーマは「町農業の将来を考える」

新規就農補助金に関しては、「農業を始めるに当たって、設備資金に活用できて良かった」「2～3年は苦勞したが、5年目では多少のめどがついた」など、新規就農者から感謝の声がありました。

農業設備、住宅については、「機械はそろえたが収納場所に困っている」「中古でも農業機械はそろえるしかない」「中古住宅があればぜひ紹介してほしい」などの要望がありました。

人材確保では、「短期雇用は難しい状況。若者で土日に手伝ってくれる人を探している」「キク栽培は家族経営に合っているが、繁忙期には短期雇用が必要な時もある」などの悩みも聞かれました。

借地を、「1年目から借りられるようにしてほしい」との要望や、水の確保で「時期により水量にばらつきがある。今は水に泥が混ざり、苦勞している」との指摘がありました。



町農業の将来を考えた分科会

富士見町議会は5月17日、コミュニティプラザで「第1回町議会オープンミーティング」を開きました。町政の課題全般について、町民の皆さんからさまざまな意見、要望を聞くという町議会の新たな試みです。初の企画は、「農業」「福祉」「商工業」の三つの分科会に分かれて行い、約30人の方が参加されました。

オープンミーティング

議員は課題を提起するが、聞き手役に徹する。発言者はお互いの意見を尊重し否定せずに、自分の考えを述べていただくというルールで行いました。3分科会を設定し、90分という限られた時間の中で活発なご意見、ご要望、ご質問をいただきました。発言された皆さんの声は、今後の議会活動に生かしていきます。